

126 昭和時代 太平洋戦争



東条英機

< 東条英機 内閣 >

- ・陸軍大臣出身。日米交渉打ち切り派。
- ・首相奏薦の任にあたる内大臣 **木戸幸一**
- が帝国国策遂行要領の **白紙還元** を条件に東条を推挙。陸相・内相を兼任して発足。
木戸「陸軍の利害だけで開戦だと言っている東条を首相にすれば、無責任なことを言えなくなることを期待しましょう」
- ・帝国国策遂行要領では **10月上旬**のはずを **12月**まで日米交渉延長
- 大使 **野村吉三郎** (ローズベルトの友人)

- ・国務長官ハル、強硬な **ハル・ノート**
- 中国からの軍の無条件撤退など要求
中国からの軍の無条件撤退、満州国以前の状態に戻す、汪兆銘政権の否認など、想定外の厳しい内容に衝撃を受け、最後通牒と受け止めました。交渉成立が絶望的に。

1941.12 **ハワイ真珠湾奇襲攻撃**

- 1942.4 **翼賛選挙** 5年ぶりの総選挙
政府推薦候補が絶対多数を獲得
→ **翼賛政治会** に加入させた。
非推薦候補も約80名当選(斎藤隆夫)
太平洋戦争中、形式的には憲法も議会も停止されることはなかった。
この体制 政治登場 近衛が大政翼賛会 翼賛政治会は東条

1942.6 **ミッドウェー海戦**

初めて大敗を喫した戦い。戦局転換のきっかけ。

1943.11 **大東亜会議**

「大東亜共栄圏」の結束を誇示するため、アジア諸国代表を東京に招いて開催しました。

お茶、タフマン、地ビール

汪兆銘政権、タイ、フィリピン、満州国、自由インド、ビルマの6か国代表です

1943.11 **カイロ会議**、**テヘラン会議**

大東亜会議に対抗してローズベルト、チャーチル、蒋介石がエジプトのカイロで会談、日本の無条件降伏まで戦うこと、戦後の朝鮮の独立を決定。

1943.12 **学徒出陣**

朝鮮・台湾に徴兵制は施行されませんでした。
朝鮮人の神風特攻隊もいましたが、朝鮮・台湾出身者は志願兵制でした。満州国は五族協和なので、朝鮮人の将校もいました。朴正熙とか。

1944.6 **学童疎開** 始まる

1944.7 **サイパン陥落** →本土空襲始まる

→内閣総辞職に追い込まれる。

< 小磯国昭 内閣 >

- ・陸軍出身。一億玉砕。戦争継続内閣。
- 1944 **女子挺身勤労令** (国家総動員法に基づく)
→女性も軍需工場に「社会進出」
- 1944 神風特攻隊 最初の出撃
- 1945.2 **ヤルタ会談**
ローズベルト、チャーチル、スターリンがソ連の保養地ヤルタで会談。**ソ連の対日参戦**が密約されました。

書いてやるボン!

カイロ会議→テヘラン会議→ヤルタ会議→ポツダム会議の順

1945.3.10 **東京大空襲**

- 1945.4.1 米軍の沖縄上陸を許す
→小磯内閣、総辞職

< 鈴木貫太郎 内閣 >

妻の鈴木孝子が昭和天皇の乳母。
内閣の使命は無事終戦に持っていく事!



鈴木貫太郎

1945.4 ローズベルト病死

1945.6.23 **沖縄陥落**

1945.7 **ポツダム宣言**

トルーマン大統領、アトリー英国首相、スターリンがドイツの保養地ポツダムで会談。日本に無条件降伏を要求。

→鈴木総理、黙殺と表現 ignore

→アメリカこれを拒絶と理解 reject

1945.8.6 **広島原爆投下**

1945.8.8 **ソ連対日参戦**

→満州・朝鮮に一挙に侵入

1945.8.9 **長崎原爆投下**

1945.8.14 **ポツダム宣言受諾**

軍は本土決戦を叫んだが昭和天皇のいわゆる「聖断」で受諾決定

1945.8.15 玉音放送

犠牲者数…日本人約**310万人**

1945.9.2 戦艦ミズーリ上で調印

全権 重光葵(まもる)外相 日光明治の館(ニルバーナ)

全権 梅津美次郎参謀総長